

■安川敬一郎 実業家。養家の家業炭鉱業から、筑豊炭田開発で鉄道業、息子に電機会社設立させ、財閥形成も厳しい最後。

やすかわけいいちろう

北斎没・・・1849＝ 福岡県西村で、福岡藩士徳永貞七の四男に生まれる。

ペリー来航・1853＝ 4歳：

五ヶ国条約・1858＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝11歳：

禁門の変・・・1864＝15歳：福岡藩士安川岡右衛門の養子となる。

薩長同盟・・・1866＝17歳：安川家の家督を継ぐ。

大政奉還・・・1867＝18歳：

明治維新・・・1868＝19歳：

兄たちの援助を受けて慶應義塾で勉学中であったが、

初の日刊新聞1870＝21歳：次男健次郎が誕生。

廃藩置県・・・1871＝22歳：長兄徳永織人が福岡県太政官札贋造事件に連座して刑死。

明治6年政変 1873＝24歳：

佐賀の乱・1874＝25歳：三兄幾島徳が佐賀の乱に官軍小隊長として出征し、戦死。即座に中退して帰郷し、廃藩置県後、**四兄弟家の生計を維持するために次兄の松本潜と徳が共同経営していた炭鉱事業に参加。**

三つの内乱・1876＝27歳：

西南戦争・・・1877＝28歳：遠賀川河口の筑豊炭の積出地の芦屋に**\*安川商店を設立し、石炭販売を直営。**

・・・1880＝31歳：高雄炭坑起業。まもなく良質の粘結炭を産出して、発展のきっかけをつかむ。

明治14年政変1881＝32歳：

新体詩抄・・・1882＝33歳：大城炭坑を買収し、

岩倉具視没・1883＝34歳：“撰定鉱区制”に対応すべく旧福岡藩士で筑豊の有力炭鉱業者平岡浩太郎と共同で赤池炭坑の開発に着手。

内閣発足・・・1885＝36歳：石炭販売の中心地の神戸に支店を設置、

帝国大学始・1886＝37歳：五男第五郎が誕生。本店を若松に移転するとともに、大阪にも支店を開設し、

国民之友始・1887＝38歳：この年県立福岡中学校を卒業した健次郎が安川商店神戸支店に見習勤務。大城炭坑の起業に着手。

初の対等条約1888＝39歳：香港、上海、シンガポールなどへの直輸出のための門司支店の開業など、販売ルートの拡充に努める。

帝国憲法発布1889＝40歳：石炭積み出しのため、筑豊興業鉄道の設立に参画、

帝国議会始・1890＝41歳：続いて、若松築港会社の設立に参画し、両社の大株主となる。**健次郎が次兄松本潜家に入籍。**

足尾鉾毒始・1891＝42歳：この年、健次郎がアメリカ・ペンシルヴァニア大学財政経済学科入学、**恐慌による炭価下落で、**

大本教・・・1892＝43歳：**破産の危機に直面、急遽帰国した健次郎が安川商店門司支店で石炭販売業務に専念して、**

郡司千島探検1893＝44歳：**危機を脱し、**

日清戦争始・1894＝45歳：

日清戦争終・1895＝46歳：**\*日清戦争期の炭価上昇を経て、ようやく安定。**

白馬会・・・1896＝47歳：**筑豊(興業)鉄道が吸収された九州鉄道でも大株主で取締役、山陽鉄道の大株主にもなって行く。筑豊炭田への進出機会を狙う大阪財界人を勧誘して、明治鉱業合資株式会社創立するが、**

八幡製鉄始・1897＝48歳：**経営方針で対立、共同経営解消すべく出資金返還を要請され、**

Bushidou・・・1899＝50歳：**創業以来の高雄炭坑を官営八幡製鉄所に売却、次兄松本潜引退で、健次郎が松本家の家督を継ぎ、**

ビアノ産化・1900＝51歳：**安川商店と松本商店を合併して安川松本商店とし、資金借入れに奔走するが、全て不調、最後の手段に、**

田中正造直訴1901＝52歳：**旧知の日本銀行正副総裁山本達雄と高橋是清に直接交渉し、赤池、明治両炭坑の全所有権を取得。**

日比谷公園・1903＝54歳：

日露戦争始・1904＝55歳：**\*日露戦争の勃発を契機とする石炭需要の拡大によって巨額の収益を得、**

日露戦争終・1905＝56歳：

満鉄発足・・・1906＝57歳：**鉄道国有法公布で、九州、山陽両鉄道分の巨額の国債を交付されると、大阪織物合資会社設立参画を皮切りに、多角経営化を推進し始める。盟友平岡浩太郎の死去で、彼が所有していた豊国炭坑を買い取り、**

韓国反日暴動1907＝58歳：**山川健次郎東京帝国大学前総長を総裁に迎え、明治専門学校を創立、**

アヲキ創刊・1908＝59歳：**赤池、豊国と合併して、明治鉱業株式合資会社設立し、社長に就任。戸畑に明治紡績合資会社を創業、**

伊藤博文暗殺1909＝60歳：明治専門学校が開校し、健次郎が初代校長に就任。

大逆事件判決1911＝62歳：明治紡績合資会社設立。

明治天皇没・1912＝63歳：この年、第五郎が東京帝大を卒業し、日立製作所に入社、

大正政変・・・1913＝64歳：この年、第五郎が渡米してウェスティングハウス社に見習勤務、

第一次大戦始1914＝65歳：**帰国した五男第五郎に起業を命じて、合資会社安川電機製作所を設立。**

ロシア革命・1917＝68歳：**日本と中国の合弁会社である漢冶萍会社の生産する銑鉄を原料とする九州製鋼株式会社を設立。**

本格政党内閣1918＝69歳：**健次郎を社長に、九州製鋼の平炉用硅石煉瓦生産を目的とする黒崎窯業株式会社を設立。**

ペルシ条約・1919＝70歳：この年、健次郎が筑豊石炭鉱業組合総長に就任。**株式会社安川電機製作所を設立し、**

大暴落・・・1920＝71歳：男爵。**合資会社を合併。開校以来予想外の財政負担となってきた明治専門学校を政府の所管に移し、**

原敬首相暗殺1921＝72歳：

護憲三派圧勝1924＝75歳：貴族院議員となる。

金融恐慌・・・1927＝78歳：技術上のトラブル続きで**大冶鉱山製錬所の供給目途立たず、九州製鋼の経営を官営八幡製鉄所に委託、**

海軍軍縮条約1930＝81歳：

満州事変・・・1931＝82歳：**創業以来赤字続きの安川電機製作所は、世界恐慌の襲来を受けて正に存続の危機に直面し、第五郎はモーター関係の製品以外全生産を中止し、それまで断固拒否して来た従業員解雇に踏み切る。**

国際連盟脱退1933＝82歳：この年、健次郎が石炭工業連合会会長に就任。

帝人疑獄事件1934＝85歳：**官民製鉄業合同策による日本製鉄の設立で、製鉄事業から手を引かざるを得なくなるなか、没した。**

インターネット宇田川勝「地方財閥の形成者」、